

# 解 答 速 報

## 藤田医科大学 ふじた未来

### 英語

#### 第 1 問

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
(4)	(1)	(3)	(2)	(2)	(1)	(2)	(3)

#### 第 2 問

問 1	問 2	問 3	問 4
(7)・(4)	(7)・(4)	(6)・(2)	(1)・(3)

- 問 1 She was ***fed up with the members present because*** of their stubbornness.  
 問 2 He was advised to ***take things easy by the doctor in charge.***  
 問 3 I'll ***see to it that my assistants meet you*** at the airport.  
 問 4 ***How come you take it out on her?***

#### 第 3 問

問 1	問 2	問 3
(3)	(4)	(1)

#### 第 4 問

問 1	問 2	問 3
(5)	(2)	(3)

#### 第 5 問

問 1	(i) 化学汚染物質の多くを禁止した後、カワウソの個体数が回復し始め、今ではブリテン島の全ての国にカワウソが生息しているということ。 (ii) カワウソはブリテン島の水生環境の食物連鎖の頂点にいて、カワウソが捕食する生物が摂取してきた汚染物質が生物濃縮し、体内に蓄積されるため。
問 2	タイから移入されたカワウソ種がイングランド東部に生息していたカワウソ種と交雑したこと。
問 3	生息地の喪失、汚染、違法なカワウソの取引のため、タイやアジア全体での遺伝子サンプルが入手困難なこと。
問 4	【あ】

#### 第 6 問

(1)	Struggling to bring up [raise] their (young) chicks in the harshest condition [environment] on Earth strengthens the bonds between mating seabirds [makes the bonds between mating seabirds stronger]. [別解] Through the hardship of bringing up [raising] their (young) chick in one of the harshest conditions on Earth, mated seabirds can develop [form / forge] stronger bonds. [原文] The struggles of raising chicks in some of the harshest conditions on Earth, have made the bonds between mating seabirds particularly strong.
(2)	Couples [Mates] that have been together for a longer time [have stayed for a longer time with each other / have spent more time together] have greater advantages, such as closer intimacy with their partners and greater reproductive success. [別解] The longer couples [mates] have stayed with each other, the more intimate they can be and the more likely they are to succeed in reproduction. These are some of the advantages to (mating) animals.

	[原文] Couples that have been together longer have the added bonus of partner familiarity and greater chances of reproductive success.
(3)	even though it means the loss of the partner, divorce [divorcing] may actually be beneficial in the long run, especially if it happens after the death of the chicks [a chick]. [原文] despite the consequences of breaking up, divorcing after losing a chick may actually benefit the birds in the long run.

## 講評

第1問：これまでとは異なり、文法・語法の出題が6問から8問に変わっていた。例年、藤田医科大学の第1問では難問・奇問の類いの出題が1・2問あったが、今年は特にそのような問題はなかったと言える。そのため、できるだけ取りこぼしをなくしたいところである。

第2問：第2問でも、悩ましい問題の出題が毎年あるが、こちらも同じく、穏当な出題だったと言える。ただし、「主治医」the doctor in charge や、「その場にいた会員たち」the members present, 「なんで～か？」How come S V ～? など、しっかりと文法・整序問題に習熟していないと足元をすくわれそうな問題だっただろう。

第3問：「クルーズ船が環境にもたらす影響」について述べた英文。例年は4問の出題だったが、3問に変更された。問2の内容一致問題では、選択肢を細部までよく読み、本文の該当箇所と突き合わせて、消去法を正確に行うことでミス避けたい。

第4問：ナショナルジオグラフィック誌の2024年4月28日の記事、“Meet the tomb diver going for gold with a career in underwater archaeology”が出典で、考古学研究の手助けのために古代の墓でダイビングをする人物へのインタビュー記事であった。第3問の間2と同じく、第4問の間3でも、細部までよく読み、根拠を持って消去法を行う必要がある。

第5問：2024年2月27日付のThe Conversation誌の記事“Could a couple of Thai otters have helped the UK’s otter population recover? Our study provides a hint”が出典で、ゲノム研究から得られた知見を動物の保全に役立てられるかということ、ブリテン島のカワウソを例に語った英文であった。記述問題は、基本的にどれも、該当箇所を発見し、その部分を和訳し、日本語を成形するアプローチでよかった。問3は該当箇所の発見に苦しんだかもしれない。

第6問：Hakai magazineの記事“Why Pair Bonding Seabirds Break Up”が出典であった。海鳥の繁殖について、つがい通しの別離が繁殖に及ぼす影響にまで触れた英文で、3ヶ所で英作文が要求された。例年よりやや英文構成が難しい箇所があったように思われる。

全体としては試験のボリューム、難易度ともに例年通りであった。合格には65%を目指したい。



メルマガ登録（無料）またはLINE公式アカウント友だち登録（無料）で全教科閲覧できます！  
メルマガ登録は左のQRコードから、LINE友達登録は右のQRコードから行えます。



<p><b>渋谷校</b></p> <p>☎ 0120-142-760</p> <p>東京都渋谷区桜丘町 6-2</p>	<p><b>名古屋校</b></p> <p>☎ 0120-148-959</p> <p>名古屋市名村区名駅 2-41-5 CK20 名駅前ビル 2F</p>	<p><b>大阪校</b></p> <p>☎ 0120-142-767</p> <p>大阪府吹田市広芝町 4-3 4 江坂第1ビル 3F</p>
<p>個別専門館 <b>麹町校</b></p> <p>TEL : 050-1809-4751</p> <p>東京都千代田区二番町 8-20</p>	<p><b>ビッグバン京都校</b></p> <p>TEL : 075-746-4985</p> <p>京都市下京区下諏訪町 360</p>	<p><b>医特塾 阿佐谷本校</b></p> <p>TEL : 03-6279-9927</p> <p>東京都杉並区阿佐谷南 3-37-2 第二大同ビル 2F</p>